

祖父母の育児支援に関する文献概観

狩野 鈴子

概 要

以前の日本における育児環境は、祖父母との同居も多く、育児に関する知識や体験は生活の中で自然と祖父母から父母へ、さらに子へと伝えられていたと思われる。しかし現代は、核家族化や女性の子育てと、社会的な参加とが同時に要求されることも多くなるなど、社会・経済・文化的システムの変化の中で、妊娠・出産・育児に対する価値観やライフスタイルは多様化し父親役割や母親役割も変貌してきている。このような現代において育児に関して祖父母から父母世代へ何をどのように伝承されているのか、また世代による差異はどのようなものかについて調査した文献24件の記述内容を検討した。結果内容を「祖父母の育児を支援することへの思い・認識」「祖父母による支援の実際」「母親の育児行動へ影響する要因」「祖父母が育児に関わることへの母親の思い」に分類した。

親と子の世代の価値観の相違、伝える側、伝えられる側の意識の違い、祖父母から母親へ伝えられていることの実際、支援の実態について様々な側面から関連を見る必要性があること、また祖父母世代が育児を行ってきた時代背景の理解の必要性、祖父母の育児支援への戸惑いや負担感を理解する視点が重要である。

キーワード：祖父母、伝承、育児支援

I. はじめに

妊娠・出産・育児により親となる過程において、自己の親との内的な体験や内的な対象は、自分が父親・母親として行動する基本的な枠組みとなる(鑑, 2005)。

以前の日本における育児環境は、祖父母との同居も多く、育児に関する知識や体験は生活の中で自然と祖父母から父母へ、さらに子へと伝えられていたと思われる。しかし現代は、核家族化や女性の子育てと、社会的な参加とが同時に要求されることも多くなるなど、社会・経済・文化的システムの変化の中で、妊娠・出産・育児に対する価値観やライフスタイルは多様化し父親役割や母親役割も変貌してきている。このような現代において妊娠・出産・育児における知識、技術および、情緒的、習俗的なものをどのように祖父母から父母世代へ伝えているのか、さらに子へ伝えようとしているのであろうか。

本研究は、主に育児に関して過去20年の研究文献を概観し、祖父母から父母世代への育児伝承をテーマとした文献における記述内容には何があるかを知り、それらが世代の円環に及ぼす影響を調査するための基礎資料とすることを目的に行う。

II. 研究方法

対象文献：育児or子育てand伝承、祖父母and育児、産褥and伝承、母娘and育児をキーワードとし、1990～2010の20年間を条件に医学中央雑誌データベースおよびCiNiiから検索した。検索結果のうち、育児に関連するものを抽出し、祖父母と親世代との関係に関し調査した文献24件について検討した。

分析方法：検索した文献について、対象、方法、内容についての項目を記載し、内容について類似性により分類した(表1)。

表1 文献概要

種類	対象	調査方法	研究目的・調査内容等
文献名(著者・発表年)			
祖母が感じる育児観の違い (久保恭子、刀根洋子、及川裕子 2009)	首都圏の孫をもつ女性480名	質問紙調査	目的: 祖母が感じる育児観の違いを明らかにする 内容: 祖母が感じる育児観、祖母が心がけていたこと、伝承したい育児文化
三重県K島における子育て文化の伝承 —30歳代女性の子育てからの検討— (澤井早苗、佐藤里絵、塩崎亜矢他 2007)	K島在住の 50歳代(母世代) 70～80歳代(祖母世代)	面接法	目的: 祖母・祖母性について分析、祖母自身の生涯発達における意味 内容: 出産状況、子育ての中心・夫の協力 夫について、夫以外の協力者 子育て観、子どもがどう育って欲しいか 子育てに思うこと・子育てでわからないことがあった場合の対処 子どもを思うこと・子育てで、子育ての伝承 親からの子育て、子どもの頃の手伝い、遊び方 自分たちが子どもをどう思うか、通過儀礼、通過儀礼を伝えるか
わが国における祖母の育児支援 (久保恭子、刀根洋子、及川祐子 2008)	孫を持つ女性10名	面接法	目的: 専門家の支援を明らかにする 内容: 祖母の意味、感情、育児支援の内容
別居祖母にみる祖親性 (小野寺理佳 2004)	札幌市圏内 祖母11名	面接法	目的: 祖母世代にとって育児支援がいかなる意味をもつか 内容: 育児支援満足度、支援状況、生き甲斐、老後期待
母乳育児における世代差 —戦後3世代の母乳育児に対する感情と行動— (坂上玲子、石田貞代 2007)	戦後3世代 A世代(20～39歳)、 B世代(40～69歳)、C世代(70歳以上)	質問紙調査	目的: 母乳育児に対する感情、行動、伝承認識に世代差が存在する事を明らかにする 内容: 母乳育児感情、母乳育児行動、母乳育児伝承認識の世代差
母親が思い描く娘の産後1ヶ月の育児に対する実母の役割 についての検討 (能城有美、安達久美子、潮田千奏子 2008)	18～22歳の娘を持つ女性241名	質問紙調査	目的: 産後1ヶ月時に実母としてどのように役割を果たそうと考えているか 内容: 育児支援に関する支援、実母自身が受けた支援
祖母有美、梅野貴恵、熊谷淳二、和田美智代 2010)	A市内 B産婦人科の祖父祖母p学級を受講した祖母40名 祖母35名	質問紙調査	目的: 母乳育児推進のための祖父祖母学級の検討 内容: 祖母の行った栄養法、孫の栄養法、育児参加の思い、母乳育児への意識
女性の母性性、育児観、母性行動における 母娘間の伝承性と社会的環境の影響性について (新道幸恵 2003)	産後・育児学級参加の祖母40名 30歳代の母親とその母(2世代3組) 30歳代の母親とその母および祖母 (3世代4組)	面接調査	母性性、育児観、母性行動、生活様式等
青森県および東京近郊において 乳幼児健診受診、一般健診やがん検診 等のため健診センターを利用した子ども もつ女性、また育児サークルに参加していた 女性1162名 第1子出生年により世代を分類 1996以降 A世代 1980～1995年 B世代 1960～1979年 C世代 1945～1959年 D世代	産後・育児学級参加の祖母40名 30歳代の母親とその母(2世代3組) 30歳代の母親とその母および祖母 (3世代4組)	質問紙調査	幼少時の家族背景と育児された経験、 母性性・育児観(女性の役割意識を含む) 育児行動(授乳方法、おんぶ、抱っこ、頻すり 添い寝)、子育てにおいて影響を受けたこと、 参考にしたこと 育児や家事でゆとりを持てたこと(物質的側面・ 精神的側面)、子育て中に母親から受け継いだ と思われること等
祖父母の子育て参加が母親の子育てに与える影響 (八重樫敦子、江草宏彦、李永喜、小河孝則、渡邊貴子 2003)	30か所の保育所、幼稚園 1416名の母親	質問紙調査	目的: 祖父母の子育て参加の実態を明らかにし、母親の子育て不安との関連を知る 内容: 祖父母の生活状況、子育て困難時の相談相手、情報源、子育て不安項目

文献名(著者・発表年)	種類	対象	調査方法	研究目的・調査内容等
実母からの授乳・育児支援のなかで娘が体験した思いと、関係要因をその思いに関係する要因 (井関敦子、白井瑞子 2010)	報告	1か月健診の褥婦11名	面接法	目的:実母からの授乳・育児支援のなかで娘が体験した思いと、関係要因を明らかにし、実母も含めた授乳・育児支援へのヒントを得る 内容:授乳への考え、母親からのアドバイス、どう感じたか、して欲しかったこと
祖母による母親へのサポートとこれからの周産期教育(第一報) 一娘が認知する実母・義母との関係とサポート授受一 (柳川真理、西村明子、中嶋有加里、炭原加代、山口雅子、山地健司 2001)	会議録	出産で入院中の初産婦と経産婦 その実母 58組	質問紙調査	目的:二世世代間の関係における役割、子どもの親としての地位・期待を明らかにする 内容:サポート授受に関する事項
実母からの育児期の伝承における娘(母親)の育児観 (掛水 恵, 坂本雅美, 市川智恵他 2009)	原著論文	入院中の乳幼児(0か月~6歳)に付き添いしている、実母がいる母親	面接	目的:実母からの伝承を受けた娘の新たな育児観を明らかにする 内容:実母からの育児期の伝承における娘(母親)の育児観、育児観と独自の母親役割遂行等
母のサポートに対する娘の認識と依存性の関連 (白井瑞子、井関敦子、久保素子、高橋明美 2007)	原著論文	1ヶ月経過した褥婦13例		目的:母から受けたサポートに対する娘の認識と依存性との関連を知る 内容:母から受けたサポートへの娘の認識
妊婦が父母に望む産褥期の支援 (澤田裕子、木下弘子 2009)	会議録	妊婦41名	質問紙調査	目的:産後の育児不安軽減に繋げるため妊婦が望む支援を明らかにする 内容:産褥期に望む支援について
祖母の子育て支援態度に関する要因 (松井弘美、西村真実子 2009)	会議録	未収額の孫を持つ祖母と母親 335ペア	質問紙調査	目的:祖母の子育て支援態度の現状と「関連因子」を知る 内容:支援態度
母親が見た幼児と祖父母の交流 (坂野美佐子、花谷香津世、奥山清子 1996)	原著論文	岡山市内の5歳児の母328名	質問紙調査	目的:幼児と祖父母の交流の実態を知る 内容:祖父母との交流
育児期の祖母力と祖父力の現状 (新道由記子 2009)	会議録	60~79歳の女性12名 男性9名	面接法	目的:育児期にある成人子に対する支援意識と支援行動について親世代の性別による違いを知る 内容:育児支援意識と実際の支援行動
祖母による母親へのサポートとこれからの周産期教育(第二報) 一妊娠・出産・育児に関する考えと祖父母教育の意義について の娘と実母の認知の比較一 (柳川真理、西村明子、中嶋有加里、炭原加代、山口雅子、山地健司 2001)	会議録	出産で入院中の初産婦と経産婦 その実母 58組	質問紙調査	目的:祖父母教育の必要性に基礎データ収集 内容:考え方の相違と祖父母教育の意義
産後の摂生に関する民間的ケアの母一娘における世代間伝承 (長嶋美佐子、高橋真理、宮里和子 2003)	原著論文	産後1ヶ月検診受診褥婦122名	面接法	目的:産後の摂生に関する助言の世代変化と伝承の特徴を明らかにする 内容:母世代と娘世代の変化、娘世代の助言への対応と次世代への伝承意思等
孫との関わり方が祖父母の心理的側面に与える影響 一中期親子関係に焦点をあてて一 (中道由紀、斎藤ひさ子 2009)	会議録	幼児期の孫をもつ祖父母774名	質問紙調査	目的:祖父母の心理的側面に与える影響を中期親子関係に焦点をあてて明らかにする 内容:孫との交流頻度、就労家族形態、自尊感情、老いへの不安、夫婦関係満足 親子関係満足
子育て支援に向けた祖父母学級導入の検討 (角川志穂 2009)	原著論文	1.6健診を受けた母親303名	質問紙調査	目的:祖父母学級導入の検討 内容:妊娠・出産に関し祖母との考え方の相違によるストレス 祖父母学級開催への希望、母から見た祖母の育児支援の必要度、祖母への要望
すこやか育児に関する研究 (芝 誠貴、前橋明 2000)	原著論文	幼児期の母親442名	質問紙調査	目的:母親の養育態度と両親から受けた養育態度の関連性を分析し育児支援の知見を得る 内容:養育態度
祖母の孫育児に関する親へのサポート(第一報) サポート提供の実態 (片桐千鶴、三澤寿美、小松良子、佐藤幸子、遠藤恵子 2001)	会議録	5歳児360人の祖母720名	質問紙調査	目的:親のサポート提供の実態 内容:情緒的、情動的、手段的サポートの程度
祖母の孫育児に関する親へのサポート(第二報) サポート提供程度と関連因子 (三澤寿美、片桐千鶴、小松良子、佐藤幸子、遠藤恵子 2001)	会議録	5歳児360人の祖母720名	質問紙調査	目的:親のサポート提供の程度と関連因子を明らかにする 内容:同居、続柄、住居の距離、育児の相談者の有無など

Ⅲ. 結 果

検索結果：「育児or子育てand伝承」24件，「祖父母and育児」120件，「産褥and伝承」9件，「母娘and育児」9件であった。

対象とする文献の分類：原著論文13件，会議録11件，1995～2000年1件，2000～2005年9件，2006～2010年14件であった。

結果内容を「育児を支援することへの祖父母の思い・認識」「祖父母による支援の実際」「母親の育児行動へ影響する要因」「祖父母が育児に関わることへの母親の思い」に分類した。

(1) 育児を支援することへの祖父母の思い・認識

久保・刀根・及川（2009）は，母親が頼りにする育児支援のキーパーソンは祖母であると，祖母が感じる「育児観の違い」「心がけていたこと及び伝承したい育児文化」について研究を行っている。結果は親役割・生活態度，親の養育態度，社会環境，物を大切にすること，家の継承，礼儀作法，生活の知恵に要約されている。

また，久保・刀根・及川（2008）は祖母への調査により祖母性と祖母力についての分析も行なっている。結果は祖母性の特徴として癒し体験・いきがい・命のつながり・浄化・重荷・家族の変化・夫婦関係の好転があった。

小野寺（2004）は，別居祖母の育児支援の意味の認識について調査している。祖母の育児支援満足度は，認知される精神的支援の量が多いほど高くなる。そして精神的支援の量は，祖母の認識において①日常生活において行き来が多く，親子間で「同一家族」との認識が共有されているほど②孫育てが自分の楽しみや生き甲斐を侵害していないほど，③対象子による老後のケア（できれば同居）が期待できるほど，④祖父との意見の不一致がなく，関係が良好であるほど多くなるとの結果である。

能城・安達・潮田（2008）は，出産を控えた娘の実母に対し，産後1か月時に果たそうとしている役割について調査を行っている。全員が何らかの支援を行いたいと思っており，内容は不安や悩みの相談にのるという情緒的サポート

を行っていかうと考えていた。そして実母自身が母親から受けた体験が，娘に行く支援の内容に関連していたという結果であった。

右田・梅野・熊谷・和田（2010）は，祖母の母乳育児の生活に対する意識について，祖父母学級受講の有無による比較を行っている。祖母が生活において協力していることは，家事・育児であり，受講の有無に差はない。母乳育児について，母乳の利点・食事の大切さ・乳房ケアについてのアドバイスは受講の有無に関係なくなされているが，未受講群は授乳後の泣きやまない時のおしゃぶりの使い方・風呂上がりの水分の与え方についての助言がなされていた。

(2) 祖父母による育児支援の実際

新道（2009）は，育児についての支援意識と支援行動について性別による違いを調査している。「祖母力」として「世帯を超えて強まる絆」「家族間メッセージ」「孫の日常生活に必要な世話」「子育ての延長としての成人子への支援」祖父力として「独立性を重視しながらの見守り」「孫の遊び相手を中心とする日常の世話」「緊急的な対応からの発展」「社会的育児への関心」としている。

八重樫・江草・李・小河・渡邊（2003）は，祖父母の子育て参加の実態と子育て参加と母親の子育て不安の関係性について母親への調査を行い，子育て参加の実態として，子育ての相談相手や情報源としてあげている者が多く，子育て不安も低い。孫の近くに住んでいる祖父母は，孫とよく交流している。祖父母の子育て参加や孫との関係の多い順は①母方祖母，②父方祖母，③母方祖父，④父方祖父である。祖父母の子育て参加頻度が中程度の母親の子育て不安が低かったと報告している。

長鶴・高橋・宮里（2002）は，産後の摂生に関する助言の世代変化と伝承の特徴について，産後1か月の褥婦とその母親への調査を行なっている。産後の摂生に関する助言は，両世代ともにその実母から助言を受けた者が多く，「休養に関する助言」が最も多く，また助言の送り手である実母より受け手である褥婦の方が詳細に記憶しているという特徴があったとしている。

板野・花谷・奥山（1996）は、幼児と祖父母の交流について児の母親に調査を行ない、最も多い交流は、食事をする、一緒に遊ぶ、テレビを見る、などで母方の祖母がどの項目においても親密な交流を行っていた。また祖父母との行き来は専業主婦よりも、母親が就労している方が頻繁であった。ひな祭り・こどもの日などの年中行事は親子で祝うことが多いが、盆、正月など、日本古来の伝統行事では祖父母と一緒にしない絆を深めていたと述べている。

坂上・石田（2007）は、母乳育児伝承認識について、世代に有意差のある項目として、「餅」や「鯉の味噌汁」「子どもが泣くたびに飲ませる」「いくつになっても飲ませて良い」を報告している。また、母乳育児に対する感情は世代差がなく「ミルク世代」といわれる世代も母乳育児に肯定的であるが母乳行動には自信のない世代であるという結果を示している。母乳育児の伝承では「母乳によい食べ物」と「自律授乳」に世代差がみられたという結果であった。

(3) 母親の育児行動へ影響する要因

松井（2009）は、祖母の子育てに対する「過干渉」あるいは「引き気味」かについての支援態度には子育てに関する価値観が影響していたとしている。

仲道（2009）は、孫の親との親子関係満足度について、祖父より祖母が、孫と同居より別居が高く、満足度に影響を与える要因として、祖父では「孫の世話頻度」「夫婦関係満足」「孫と過ごす頻度」「孫の親の就労家族形態」「健康度」、祖母では「自尊感情」「年齢」「夫婦関係満足」「孫の人数」であったと報告している。

芝（2000）は、母親の養育態度と祖父母による母親自身への養育態度（回想）についての関係性について、母親の養育態度は祖父母の統制的な養育態度の影響を受けて、子どもに対しても同様な統制的態度で接する傾向があるとしている。しっかり躰を行おうとする祖母の態度は同姓の親として容易にモデリングされやすいとしている。また祖父においては被統制的な態度との関係性が深く、どちらかという子どもに服従的である自身の父親の態度から、厳しくしっかりとした子育てを行うべきという意識が

芽生え行動化されているとしている。

新道（2003）の質問紙調査においては、育児行動（母性行動）「おんぶ」は若い世代になるにつれ、徐々に減ってきている。「添い寝」は若い世代の方が行っていた。「頬ずりや」「抱っこ」は世代ごとに差がみられなかったと報告している。

また、育児観に関するものとして、子育てへの実母からの援助については家族形態や経済状況等の社会的背景に変化があり、それらの影響を受けながらも実母からの援助のあり方等に伝承性がみられた。育児観にみられる伝承の様式は、子育てで参考にした事について自分でも気づかない部分で母親からの影響を受けたり、また部分的に自分で取捨選択して受け継いできていた。質問紙調査では、母性性や育児観などの目に見えない部分は実母から伝承している部分があることが明らかになったとしている。

新道（2003）の面接調査では、母性行動に関するものとして、「おんぶ」と「添い寝」については、社会的背景により変化はあったものの、どの世代においても実施されており、母娘間の伝承が認められた。しかし「おんぶ用具」には社会的背景の影響があったと推察している。

(4) 祖父母が育児に関わることへの母親の思い

澤（2009）の調査では、出産後に実家で実父母と同居しようと考えている妊婦が多く、育児を主に手伝って欲しいのは実母をあげる妊婦が多かったと報告している。

角川（2009）は、就業している母親にとって、子育ては祖母がキーパーソンであるとした上で、祖母との関係性において、母親の1割が祖母との育児観の違いからストレスを感じていたと報告している。また半数以上が「祖父母学級」の開催を希望し、祖父母に求める役割として「みること」「聞くこと」「話すこと」が抽出されたと報告している。

井関・白井（2010）は、実母から授乳・育児支援を受けた産後1か月の褥婦に対し実母から提供された支援に対する思いと関係する要因について、その思いは「肯定的な思い」「否定的な思い」「淡々とした思い」があり、これらの思いに関係する要因として「サポート期待」「実

母の育児能力」「実母との関係性」「希望する授乳法と泌乳」「サポート提供と認知」を抽出し、実母による支援状況、娘の思いを確認し、実母も視野に入れた授乳・育児支援の必要性について述べている。

白井・井関・久保・高島（2006）は、母親からのサポートに対する娘の認識と依存性の関連について調査しており、母の支持的かつ受容的サポートは、娘の育児ストレスを和らげ、肯定的役割移行を効果的にし、母の支配的あるいは回避的関わりは母娘関係の緊張状態を引き出し、娘の児に対する愛着障害のリスクを生み出すと述べている。

掛水・坂本・市川・横山（2009）は、乳幼児を持つ母親への調査により、実母からの育児期の伝承における娘（母親）の育児観の構成要素として、「実母への安心感」があることで「実母をモデル化」しており、そのモデルとする実母から肯定的なサポートを受けることにより「育児負担」が軽減され、子どもの成長を願うことができ、それが「生きがい」となり「親としての自己成長」につながると述べている。

柳川・西村・中嶋・炭原・山口・山地（2001）は祖母による母親へのサポートについて娘の認知は、妊娠中・入院中・産後のいずれも義母より実母の方からサポートを多く受けとったと認知—評価している。

また、祖父母教育の意義について娘と実母の認識の比較を行っている。実母は娘以上に妊娠・出産・育児に対し戸惑いを感じており、娘の妊娠出産・育児への考え方は、育児雑誌・医療従事者からの助言の影響が大きく、実母は自分の体験・娘から聞いた母親学級や退院指導などから影響を受けている。娘への援助の動機については、孫のかわいさ・母親として、祖母としての義務感からであり、祖母学級の必要性については、実母より娘の方が必要性を感じているという結果であった。

片桐・三澤・小松・佐藤・遠藤（2001）は、祖母の孫育児に関する親へのサポートについて情動的、情緒的、手段的について調査し各サポート提供の程度は高く、サポート間には相関が見られ、単独ではなく同時に行われているとした。

また関連因子として、情動的サポートは娘の

子の方が息子の子より提供程度が高く、情動的、情緒的サポートは住居距離には関連がなく、肯定的報酬感が高い、育児知識が充分ある、と認識している祖母の方が提供程度が高いという結果であった。

IV. 考 察

1. 育児を支援することへの祖父母の思い・認識

現在祖父母となる世代は、共稼ぎ時代を生きてきた人が多く、育児に対する自信のなさや今の子育てとの違いから支援に戸惑っている場合が多い（日本助産師会報告書 2010）。身近な祖父母が育児に関わることで、親の育児不安の解消に貢献するという目的で、近年市町村や専門職による祖父母学級などが開催されてきている。祖父母学級については、柳川、右田、角川らが調査を行っているが、祖父母が自分自身の意志として参加したいと思う内容の吟味が必要となる。今後は実践の評価についての研究も増してくると思われる。

また「祖母力」について、樋口（2007）はただ「孫がかわいいからそれだけで祖母は満足しているだろう」「孫のそばにいられることは年寄りにとってありがたいこと。孫の世話は祖母が喜んですべきこと」と親や世間が考えているとしたら、それは思い上がりである、と述べている。祖父母に対して母親目線で画一的な祖父母の役割をおしつけることのないよう、それぞれの生育背景を理解し、責任感や負担感を感じるだけでなく、定年退職後の自分自身の人生を楽しむことへの想いに駆られることも当然あるという視点は必要である。

2. 祖父母による支援の実際

祖父母と孫の交流について、年中行事は家族で行うが、正月や盆は祖父母一緒に行うというのは、特別な日であり日本人の神や先祖に対する意識やあの世観が受け継がれていることが推察できる。

産育習俗や通過儀礼については、医療が発達していなかった時代は、お産は母子ともに死の危険をともなった一大事であったため、赤ちゃんの無事な誕生と、その後の健やかな成長を願

う思いとして伝えられてきた。これら伝統的な儀礼や行事について松岡（1997）は、「家族の記念日づくり」の意味合いや新たな意味合いが加えられ受け継がれていると述べている。これらの伝承の変化が、母性の獲得や、社会関係の変化の認識に影響を与えてはいないかという視点が必要である。

母乳栄養については世代により母乳行動に差がみられるが、そこには社会的背景が大きく影響している。乳業会社の大量宣伝による消費をあおった（毛利，1972）ことや、施設内出産の普及により、出産や母乳育児に対する母親自身の主体性への影響を与えた可能性、また当時アメリカの女性の自立を推進する運動の影響を受け直接授乳が減少したこと（鎌田，2000）も影響していたと思われる。

子どもを健やかに育てることが目標であるはずの母乳育児が、世代による意識の差、授乳方法の違いによることで祖母-母の両者のストレスになることがあってはならないと考える。

3. 母親の育児行動へ影響する要因

河合（1998）は、「家族の結びつきで一番自然に近いのは、母・娘の関係であろう。子どもは女性から生まれてくる。従って、母が娘を産み、その娘が母となって娘を産むという考え方をすると、母・娘という関係が人間が存在していく基盤と考えられる」と述べている。母-子の関係の中で実母との心理的な結びつきを深めてサポートを受けることは、情緒的な支え繋がるであろうが同時に支援者である実母の対応によっては、逆にストレスと成りうることもあると思われる。

育児行動に影響する要因は決して単一的なものではなく、母親と祖母との関係に限定されるものでもなく、過去から現在まで祖母を取り巻く環境の影響がすなわち母親にまで影響するということであり、その意味で世代の円環に与える影響が大きい。人生における最大のイベントである妊娠・出産・育児において、実母から母親としての肯定的なメッセージを送られることの大切さ、すなわち身体的側面のみならず、心理的・社会的側面からの関わりの重要性を再認識し家族の支援を行なっていく必要がある。

4. 祖父母が育児に関わることへの母親の思い

祖父母が育児を行っていた時代、臨床医学文庫、育児相談のためにという指導書（鈴木，1970）には「しつけと生活習慣」の項に「抱っことおんぶ」について長時間、頻回の抱っこは抱き癖をつけるから好ましいことではない、次第に依頼心が強くなり、将来の自立にも影響するところが大きいと述べている。さらに「家族環境（家族の育児態度）」について、「複合家族」は人手が多く保育の交替に便利であるし、育児の経験者から知識を得ることが容易であるが、育児に干渉する人が多いだけに、育児方針が一定せず、好ましくない現象の起きる要素も多分に含まれている。最も問題が多いのは祖父母（特に祖母）の干渉である。祖父母はとかく孫に手をかけすぎ、甘やかし、旧時代的育児法を息子や嫁に強要し、進歩的な育児理念を受け入れようとしない、と述べている。当時一般的であった育児の指南は現在の母親にとっては受け容れがたいものもあるであろう。実母への依存はしたいが、価値観の違うことへの干渉はストレスフルであるという母親に対し、両者が納得できる関わりや関係作りが重要である。

V. 終わりに

文献の検討により、親と子の世代の価値観の相違、伝える側、伝えられる側の意識の違い、祖父母から母親へ伝えられていることの実際、支援の実態について様々な側面から関連を見る必要性があること、そして改めて祖母から母親への伝承の影響の大きさを再認識した。また祖父母世代が育児を行ってきた時代背景の理解の必要性、祖父母の育児支援への戸惑いや負担感を理解する視点も重要である。時代と共に社会の価値観が変わり、文化が変わりそれによって個人の考え方も変わるであろうが、親になり、子どもを育てていく上で失ってはならない要素は何であり、それをどのように伝えていくのが今後の検討課題である。

文 献

樋口恵子（2007）：祖母力，講談社，東京。

- 井関敦子, 白井瑞子 (2010): 実母からの授乳・育児支援のなかで娘が体験した思いと, その思いに関係する要因, 母性衛生, 50 (4), 672-679.
- 板野美佐子, 花谷香津世, 奥山清子 (1996): 母親が見た幼児と祖父母の交流, 川崎医療福祉学会誌, 6 (1), 63-71.
- 掛水 恵, 坂本雅美, 市川智恵 (2009): 実母からの育児期の伝承における娘 (母親) の育児観. 日本看護学会論文集 小児看護, (40), 39-41.
- 河合隼雄, 大庭みな子 (1972): 家族と性, 岩波書店, 東京.
- 鯨岡 峻 (2002): <育てられる者>から<育てる者>へ, 86-90, 日本放送出版協会, 東京.
- 鎌田久子, 宮里和子, 菅沼ひろ子 (2000). 日本人の子産み・子育て216-226. 勁草書房, 東京.
- 久保恭子, 刀根洋子, 及川祐子 (2008): わが国における祖母の育児支援母性衛生, 49(2) 303-311.
- 右田温美, 梅野貴恵, 熊谷淳二, 和田美智代 (2010): 祖母の母乳育児に対する意識に関する研究, ペリネイタルケア, 29 (8), 92-99.
- 松岡悦子 (1997): 出産の文化人類学. 海鳴社, 4-6.
- 毛利子来 (1972): 現代日本小児保健史, 243-244, ドメス出版.
- 孫育て講座プログラムおよび教材開発ならびに助産師指導者育成および普及事業 (2010), 社団法人に本助産師会. 東京.
- 能城有美, 安達久美子, 潮田千寿子 (2008): 母親が思い描く娘の産後1ヶ月の育児に対する実母の役割についての検討, 母性衛生, 49 (3)
- 長鶴美佐子, 高橋真理, 宮里和子 (2003): 産後の摂生に関する民間的ケアの母-娘における世代間伝承, 日本母性看護学会誌, 2 (2), 21-29.
- 小野寺理佳 (2004): 別居祖母にみる祖親性, 北海道大学紀要 第96号119-141
- 坂上玲子, 石田貞代 (2007): 母乳育児における世代-戦後3世代の母乳育児に対する感情と行差動-. 山梨県母性衛生学会誌 6 巻 1号, 15-21.
- 澤井早苗, 佐藤里絵, 塩崎亜矢 (2007): 三重県K島における子育て文化の伝承-30歳代女性の子育てからの検討-, 三重県立看護大学紀要11巻, 81-92.
- 新道幸恵 (2003): 女性の母性性, 育児観, 母性行動における母娘間の伝承性と社会的環境の影響性について. 文部省科学研究費補助金研究成果報告書.
- 鈴木栄. 育児相談のために (1970) 103-115. 金原出版. 東京.
- 澤田裕子, 木下弘子 (2009): 妊婦が父母に望む産褥期の支援, 50 (3), 127
- 白井瑞子, 井関敦子, 久保素子, 高橋明美 (2007): 母のサポートに対する娘の認識と依存性の関連, 香川母性衛生学会誌, 6 (1), 29-36.
- 松井弘美, 西村真実子 (2009): 祖母の子育て支援態度に関する要因, 50 (3), 127.
- 仲道由紀, 齋藤ひさ子 (2009): 孫との関わり方が祖父母の心理的側面に与える影響-中期親子関係に焦点をあてて-, 50 (3) 128
- 角川志穂子 (2009): 育て支援に向けた祖父母学級導入の検討, 母性衛生, 50 (2) 300-309
- 久保恭子, 刀根洋子, 及川裕子 (2009): 祖母が感じる育児観の違い, 日本助産学会誌, 22 (3), 462
- 芝 誠貴, 前橋明 (2000): すこやか育児に関する研究, 日本保育学会大会研究論文集, (53), 182-183.
- 新道由記子 (2009): 育児期の祖母力と祖父力の現状, 母性衛生, 50 (3) 128
- 鑑幹八郎 (2005): アイデンティティとライフサイクル論, 219-227, ナカニシヤ出版, 京都.
- 八重樫牧子, 江草安彦, 李永喜, 小河孝則, 渡邊貴子 (2003): 祖父母の子育て参加が母親の子育てに与える影響, 川崎医療福祉学会誌, 13 (2), 233-245.
- 柳川真理, 西村明子, 中嶋有加里, 炭原加代, 山口雅子, 山地健司 (2001): 祖母による母親へのサポートとこれからの周産期教育 (第一報) -娘が認知-評価する実母・義

母との関係とサポート授受－，母性衛生，
42 (3)，250.

柳川真理，西村明子，中嶋有加里，炭原加代，
山口雅子，山地健司 (2001)：祖母による
母親へのサポートとこれからの周産期教
育 (第二報)－妊娠・出産・育児に関する
考え方と祖父母教育の意義についての娘と
実母の認知の比較－，母性衛生，42 (3)，
250.

狩野 鈴子

Documents General View about The Child Care Support of Grandparents

Reiko KANO

Key Words and Phrases : Grandparents, tradition, child care support